

# うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のこです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO団体などを紹介します。  
 問まちづくり支援課 82・3910/IP 88・9094

## ①今年も松明講の一行をサポート

笠間地区まち協

3月12日、伊賀一ノ井松明講サポート事業を行いました。毎年3月に奈良市東大寺の二月堂で行われる修二会(お水取り)は春を呼ぶ行事として有名です。この行事に用いられる松明木を奉納する一行をもてなすとともに、参加者との交流を目的とするものです。

早朝に名張市赤目町一ノ井を出発した松明講一行は、笠間街道を通り笠間峠を越えて宇陀市に入られます。笠間地区では長年この一行に休憩場



▲二月堂に納める松明木

所を提供し、温かい食事などのおもてなしをしています。今年、新型コロナウイルスの影響で、松明講調進行事は規模が縮小され、一行の人数は9人となり、また全行程を自動車で運送することになりました。当まち協もこれに対応して、飲み物とトイレ休憩場所の提供のみとなりました。当日朝8時過ぎに到着した松明講の一行は小休止をとり、出迎えた「笠間の郷を思う会」の人たちと調進行事について歓談し、親交を深めた後、自動車で東大寺に向けて出発されました。



▲ひと時の情報交換

## ②タイムトラベル「今と昔の榛原」展示

榛原地区まち協

「ワ、懐かしいなあ」「せや、せや、こんなんやったなあ」「榛原駅のホーム見てみたい、昔はえらい混んでたんや!」大正時代や昭和時代の榛原地域の写真や地図を3月23日〜27日の短い期間でしたが、市役所1階「ふるさとテラス」に展示しました。伊勢本街道の町割り図なども展示してあり、セピア色の古い写真を見ると、近鉄線のすぐ横を流れる宇陀川も現在の場所とは違うところを流れていたことが分かります。当時の町を知っている方も、全然



▲展示の様子



▲昭和46年榛原駅前商店街

知らない方も、老若男女問わず楽しめる内容でした。昔の榛原の賑わいや生活にタイムスリップすることができ、当時を知る年配の方は懐かしそうに写真に見入っていました。展示資料は、当まち協が地元住民の方や市役所に協力をいただき、とりまとめました。今後も市内で展示会を計画しますので、今回見る事ができなかった方もぜひお越しください。



▲懐かしく昔を思いながら

## ③スマホで見れるあきの螢能をオープン

あきの螢能保存会

あきの螢能は300年ほど前に宇陀松山藩主、織田長頼公が行った「神事能」にはじまり、大正時代まで脈々と続けられてきました。一時期は途絶えたものの、平成4年(1992年)に「あきの新能」が70年ぶりに復活。その後「あきの螢能」と改め、現在に至っています。

夜に屋外で行う「新能」は全国各地で年間200ともいわれているなかで、会場内に螢を飛ばす「螢能」はここだけ。1400年を超える歴史を持つ

つ、元伊勢阿紀神社の能舞台で、深淵の闇に向かって数百の螢の光が四方八方に乱れ飛ぶさまは圧巻の迫力。会場からは大きなどよめきと拍手がおこります。私たち保存会は、この「あきの螢能」を次世代や世界につなげていこうと努めています。

去年は特別席エリアの設定や、絵馬の販売を行い、今年には「あきの螢能」のWEBサイトをオープンしました。スマホ・タブレットでの利用はもちろん、チケット購入、過去の演目、交通アクセス、宿泊場所情報なども見れる、充実の内容。画面にはホタルのような光が飛び回り、幻想的な世界が広がります。



今年にはコロナの影響で上演中止となりましたが、このWEBサイトでお楽しみいただき、来年はぜひ会場にお越しください。



## まち協などの催し予定 5月

(4月14日現在)

日	曜日	イベント案内	主催
17	日	石楠花 花がら摘み	田口地区まち協

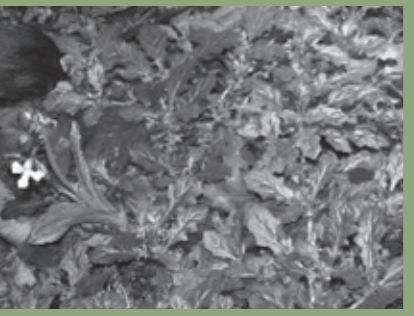


## 〜キラソウ〜

キラソウは、道端や林の縁、田畑のあぜ、庭の隅などの草むらや荒地に生える植物です。濃紫色の小さな花を数個付けた植物が、地面にひついたり広がっているのを見かけることがあると思います。葉の表面は深緑色ですが、裏返すと紫色を帯びているので、庭のどこかを探すと見つかるでしょう。昔からキラソウが生えているところで生活していると、神経痛やリウマチにかからなるといわれています。それは、この植物が生える土地は、異常乾燥地でも加湿地でもない

ことを示しており、そんな優れた環境では、神経痛やリウマチになりにくいからです。キラソウは直立せず、地面をはって成長しながら広がるので、あたかも地獄のかまにふたをしたようだと考えられ、「ジゴクノカマノフタ」という別名もあるほどです。

花の咲いているこの時期に茎先を摘み取り、てんぷらにしたり、春から秋にかけて柔らかな部分を採取し、水にさらしてマヨネーズや酢みそ、ゴマあえなどにしたりして食べるとおいしくいただけます。



▲生葉汁を塗布すれば、やけど、切り傷、毒虫の刺し傷、あせも、リウマチに効き、腫れ物のうみを出す効果があるキラソウ

※当市で「薬草活用講演会」をしていたいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

問 産業企画課 ☎82・5874 / IP ☎88・9075